

英語科学習指導案

場 所 1年B組教室

学 級 1年B組(男子17名, 女子 9名, 計26名)

指導者 教諭 葛巻 孝子 ALT Kevin Tuszl

1 単元名 Unit 7 「カナダの学校」

2 単元について

(1) 教材について

この単元は、カナダの中学生ビルとのテレビ会議による対話から、情報を得ることを中心に構成されている。Unit6 で登場したグリーン先生の姉リサに続いて、生徒と同年代の弟ビルが今度はモニターの画面上に登場する。パート1では、グリーン先生はテレビ会議を使った授業を行い、カナダの中学校に通う弟ビルと日本の中学生たちがコミュニケーションできる場を設定している。パート2では、カナダと日本の互いの時刻と天候が話題になっている。パート3では、シンはビルに、カナダの中学校の授業時数・時間について質問している。パート4では、エミはビルに、放課後の活動やビルの部屋にあるものについて質問している。テレビ会議を利用して外国の中学生と交流するのは、現実でありうることだが、本校の生徒には身近ではなく、中学校段階では、英語の難しさも壁になる。ここでは、理解可能な英語を用いて、その模擬体験もできるので、「異文化理解」「情報教育」を意識させながら異国とのテレビ会議の場を想定し言語活動を行わせ、表現する力を身につけさせたい。

(2) 生徒について

この学級は、男子の人数が圧倒的に多いため、男子が学級の雰囲気を作っている。男子は、若い生徒が多く、素直で明るい。男子の中にはユーモアがあり、人前で芸を披露して楽しませたい生徒が何人かいる。発言は男子が活発である。女子は発言が苦手であるが、英語の学習は好きであり、間違いを恐れずに積極的に発言することが課題である。

普段の授業では、男子は表現活動を意欲的に行う。とくに、Warm-upで行っているQ and Aや、ゲーム的な要素を取り入れた言語活動での反応がとても良い。話したり聞いたりする活動は良いが、テストなどの単語や文を書くことは努力を要する。

(3) 指導について

表現力を高めるための工夫として、導入ではQ and Aで、既習事項をスパイラルに学習する機会を作る。また、表現する意欲を高めるためには、ゲーム的な活動を行う。単元のまとめとしての表現活動では、浜民と世界各国をテレビ会議で結んで、応答することを想定させ、言語材料の習得と表現する力を培っていきたい。

3 単元の目標

(1) 人について誰であるかたずねたり、答えたりできるようにする。

Who ~?と応答と形を理解し、表現できるようにする。

(2) 世界各地の時差について知り、現在の時刻や天候についてたずねたり応答できるようになる。

What time ~?と応答の形を理解し、表現できるようにする。

(3) カナダの中学生とのテレビ会議を通じて、学校生活についての情報を得る。そこで学んだことを活用して表現できるようになる。

4 単元の指導計画

(1) Unit7 【6時間】

- ① 人について、誰であるかたずねたりそれに答えたりする表現を学び活用する。 1.5時間
- ② 現在の時刻や天気についてたずねたり、それについて答える表現を学び活用する。 1.5時間
- ③ 学校生活についてたずねたり、それについて答えたりする表現を学び活用する。 2時間

④ まとめ：学んだ表現を活用して、テレビ会議の場を設定し表現活動を行う。1時間（本時）

5 本時について

(1) 目標

学んだ表現 (I' m～. What time～?) を使って、テレビ会議を行うことができる。

(2) 本時の構想

この单元では、カナダの中学生とのテレビ会議を通して、学校生活についての情報を得ることが題材になっている。ほかの国の学校生活の情報を知り日本の中学校と比較してみることは、異文化に触れることなので、生徒にとって興味関心がわく教材である。

前時までは、Unit を通して基礎基本事項である Who～? や What time ～? を学び、カナダの中学校について学んだ。そして本時は、そのまとめとして、Unit 全体を通して振り返り、それを活用して、テレビ会議という場を想定して、表現活動を行う。

研究に関わって、本時では、以下の点に留意し授業展開を考えた。

① グループの活用

グループ内でお互いに評価し、高めあうために小グループを用いる。各グループには、グループ活動をリードできる生徒を1人入れて編成している。ペアで練習し、グループ内発表とする。

② 生徒の意欲を高める工夫、手立て

表現活動に意欲的に取り組ませるために、授業の Warm-Up では、Q and A などの活動を取り入れる。また、表現する雰囲気を盛り上げるために、小道具を用意し、劇のように楽しく取り組めるように工夫する。

③ 技能面の手立て

活動を無理なく行うために、ヒントとして活用できる単語を提示する。一人での活動ではなく、ペアで口頭練習をさせる。練習の時には、机間指導を行いアドバイスをを行う。

(3) 具体の評価規準

	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する）への支援
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	話者を見てうなずきながら聞いたり、語句の工夫をして話そうとしている	テレビ会議をするときに必要な表現を用いて英文にしたり、話者の話を聞いたり、話そうとしている	テレビ会議をするときに必要な表現について、語句の活用方法を示したり、日本語での補助をする
表現の能力	テレビ会議をするときに必要な表現を適切に用いて、わかりやすい6文以上のまとまった英文で発表することができる	テレビ会議をするときに必要な表現を用いて、5文程度の英文で発表することができる	テレビ会議をするときに必要な表現について語句の活用の仕方や、例を示して支援する

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	教師の指導・支援	◇留意点 ◆評価
導入 10分	1 あいさつ 2 Warm-Up 3 既習事項の復習 4 課題提示	1 あいさつ 2 Q and A ・Game 3 既習事項を Q and A で確認する 4 本時の課題を提示する		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 渋民と世界各地を結び、テレビ会議をしよう。 </div>				
展開 30分	5 課題解決の見直し 6 小グループ内発表 7 全体発表	5 日本語のメモみて、口頭練習する 6 小グループ内発表を行う。 ・小グループ内で相互評価し、代表のペアを選ぶ。 7 代表のうち立候補で2～3つのペアが全体の前で発表する。	・ポイントを提示する（文の形・語句など） ・口頭練習を支援する（文の形と使う語句） ・ 小グループ内での活動を支援する。文の形や声の大きさなど(グ) ・ 意欲を高めるために小道具を用いる(意) ・ 発表がおわるごとにアドバイスを与える(意)	◇ ペア ◆ 協力しているか ◇ 小グループ ◆ 意欲的に発表しているか ◆ のびのびと表現しているか
終末 10分	8 まとめ 9 評価 10 次時の確認	8 発表した英文を書く 9 自己評価をする ・次時の確認をする	・書くポイントを提示する ・良かった点を具体的にほめる ・次時の確認をする	